

令和5年度

学校関係者評価報告書  
(専門学校東京クールジャパン)

自：令和5年4月1日

至：令和6年3月31日

学校法人21世紀アカデミア  
専門学校東京クールジャパン・アカデミー

2024年6月30日作成

専門学校東京クールジャパン・アカデミー 学校関係者評価委員会は『専門学校東京クールジャパン 令和5年度自己評価報告書』に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

委員	所属等	選任区分等	
松田 敏博氏	全国私立通信制高等学校協会事務局長	有識者・高等学校理事長・校長	欠席
藤沢 理子氏	株式会社エッジワークス 取締役	関連分野企業役員	
松本 翔吾氏	有限会社ゼクシズ	卒業生・関連分野企業在職	
岡崎 千治氏	千駄ヶ谷大通り商店街振興組合千駄ヶ谷グリーンモール理事長	地域関係者・都市計画審議会委員	

2. 本校出席者

氏名	職務等	
工藤 憲子	専門学校東京クールジャパン・アカデミー 学校長	欠席
野中 智之	学務責任者	
池田 貴之	事務長	
本木 能之	ゲーム総合学科 学科長	
真家 祐也	アニメ総合学科 学科長	
西岡 創	声優学科 学科長	
川上 美樹	グローバルキャリアデザインセンター センター長	
井上 正樹	ゲーム総合学科 教諭	
前手 俊和	事務局	

3. 日時・場所

日時：令和6年6月27日(木) 14:00～15:50

会場：専門学校東京クールジャパン・アカデミー 202教室

4. 委員会次第

- ・開会あいさつ
- ・学校長挨拶
- ・参加者紹介
- ・自己評価結果について基準ごとに説明、質疑応答、審議
- ・意見交換
- ・閉会

各基準項目ごとの自己評価の報告に先立ち、学校長の工藤より教育目標・重点目標についての説明・報告がなされた。

#### ■学校の教育目標

21世紀アカデミアは大学も専門学校も超える「新たな学びの場」として、これからの時代に活躍し続ける人材育成を目標とする。人工知能などの技術革新がすでに普及している中、これからの時代はただ「知識」や「技術」を身につけただけでは、実社会で「活躍できる人材」にはなれない。本校は、独自の実践体験的なカリキュラム「セブン・ステップ・カリキュラム」を通じて、「5つのプロフェッショナル力を持って活躍できる人材＝ファイブ・スター・プロフェッショナル」を目指す。セブン・ステップ・カリキュラムの一つ「最先端エキスパート・スキル」では入学前より、「体験を通した学び＝教育イベント」を通して専門分野の最先端スキルを身につけるAO2.5年教育を提供する。また、本校は、就職・デビューのその先を考え、学びへ取り組むことを大切にする。将来の自分をイメージし、夢を実現するために、各教育イベント終了後は、リフレクションを行い、5つのプロフェッショナル力の成長確認や次の学びへ向けた目標設定を行う。

#### ■重点目標および計画

- ・「最先端エキスパート・スキル」の習得と「実践体験的なプロフェッショナル力」  
日常的な専門的授業では、その学習効果を高める「振り返りと反省の技法」に取り組んでいく。  
あわせて学科や学校を超えた学びの場を用意し、他の専門分野のエキスパートと協同するという経験をしてもらい、さらに全国の学生が、チームを組んで実社会に提案できるプロジェクトに取り組む「実践体験の場」を提供する。これらセブン・ステップ・カリキュラムにより、実社会で活躍できるプロフェッショナルを育成。
- ・AO2.5教育  
入学前授業においてカリキュラム、教育目標に触れてもらうことで、無理なくかつ、将来への着実なステップを体感してもらう。
- ・産学連携、教育イベント  
学科分野ごとの産学連携や教育イベントでは、自分の作品やパフォーマンスが世の中に出るという貴重な経験となる。実社会で求められることは技術や知識だけではなく、達成する意志と能力の必要性を実感することで、その後の学びへ再び活かしてもらう。

今回の報告に当たる令和5年度は本校創立40周年を迎えることができた。各委員お方々にはその式事の際にも大変ご協力いただき改めて感謝いたします。

また前回の委員会の場にて発表させていただいたように、この4月より正式に【専門学校東京クールジャパン・アカデミー】と校名が変更されている。校名と共に新たな教育目標に向けてスタートをきった年でもあった。

建学の精神、学校の目標として、大学も専門学校も超える「新たな学びの場」として、これからの時代に活躍し続ける人材育成を目標としている。世界で活躍している卒業生である、米山舞さんの絵画作品を教室に提示しパンフレットにも使用している。米山さんのような方を目標に教育活動を進めてきた。大きく変わった学校の方針を職員から学生さんに理解して頂く1年間でした。今年も引き続きカリキュラムの浸透を図っていく。クロスオーバーフライデー、クロスオーバーウィークといった、他の学科や他の校舎の授業を学べるカリキュラムを実施し軌道に乗せることができた

以下、自己評価報告と基準項目ごとに各担当者による達成状況の説明・報告と評価委員からの意見をまとめた。

1 教育理念・目標				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1				
1	1	中項目	理念・目的・育人人材像（教育理念（建学の精神）・目的・目標、育人人材像等が明文化されているか。職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか）						
1	1	1	学校の理念・目的・育人人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	A	④	3	2	1	
1	1	2	学生・保証人（保護者）に対して教育理念等を明文化し、周知しているか	A	④	3	2	1	
1	1	3	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか	B	④	3	2	1	
1	1	4	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか	B	④	3	2	1	
1	2	中項目	教育の特色（社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いていますか）						
1	2	1	各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか（コース修了後に、学習者がそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか）	A	④	3	2	1	
1	2	2	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか（学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか）	A	④	3	2	1	
1	2	3	学校における職業教育の特色は明確になっているか	A	④	3	2	1	
<p>① 課題</p> <p>2023年4月より、学校法人としての体制を改革し「21世紀アカデメイア」として、新たな教育理念を立て、その実施に取り組んでいる。各種パンフレット、HP、またホームルームや保護者への通知文書、講師会などを活用し、周知徹底に努めてきた。しかしながら、取り組みの初年度でもあり、まだ過渡期と言えるため、さらに継続的な周知、また実施結果の振り返りと取り組みの改善が必要とされる。</p>									
<p>② 今後の改善方策</p> <p>上記の通り、現在は新たな教育理念を定着させていく過渡期であるため、過程も含めた実施結果の振り返りを行い、改善を積み重ねながら、その成果を具体例としてさらなる周知に努めていく。</p>									
<p>③ 特記事項</p> <p>特になし</p>									

2 学校運営				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、 やや不適切・2、不適切・1					
2	1	中 項目	運営方針（運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか）							
2	1	1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	A	④	3	2	1		
2	1	2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	B	④	3	2	1		
2	2	中 項目	事業計画（事業計画を作成し、執行しているか）							
2	2	1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか	A	4	③	2	1		
2	2	2	学校の年間スケジュールはあるか	A	④	3	2	1		
2	3	中 項目	運営組織（運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか）							
2	3	1	寄附行為、理事会会議規則等（法人）、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会（法人）、学校の運営会議等が開催されているか	A	4	③	2	1		
2	3	2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	A	4	③	2	1		
2	3	3	組織機能図があるか	A	④	3	2	1		
2	3	4	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に行われているか	B	④	3	2	1		
2	3	21	出退勤管理簿があるか	A	④	3	2	1		
2	3	22	教職員の健康診断がされているか	A	④	3	2	1		
2	3	41	施設設備の保守・管理が定期的に行われているか	A	④	3	2	1		
2	4	中 項目	教職員の評価・育成（教員及び職員の能力評価・能力向上に向けた取組みを行っているか）							
2	4	1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	A	④	3	2	1		
2	4	2	現に教員数が充足していない場合、採用活動を行っているか、または、教員資格等取得に向けた教育・指導を行っているか	A	④	3	2	1		
2	4	3	授業評価の実施・評価体制はあるか	A	4	③	2	1		
2	4	4	教員の組織体制を整備しているか	A	4	③	2	1		
2	4	21	職員の能力開発のための研修等が行われているか	A	4	③	2	1		
2	4	22	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか（研修等の効果を評価し、文書により記録しているか）	A	4	③	2	1		
2	4	23	教育の成果（学修結果）に基づく教員面接を実施しているか	B	④	3	2	1		
2	4	24	〔職業実践専門課程〕専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて組織的・計画的に受講させているか	B	④	3	2	1		
2	4	25	教員に対して、割り当てられた職務及び責任、学習サービスの評価結果、本人の専門能力開発のニーズに対する見解を考慮に入れて、専門能力開発の計画を作成しているか（教職員研修計画の作成）	B	4	③	2	1		
2	4	41	教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	B	④	3	2	1		
2	5	中 項目	人事・給与制度（人事・給与に関する制度を確立しているか）							
2	5	1	人事に関する制度を整備しているか	A	④	3	2	1		
2	5	2	給与に関する制度を整備しているか	A	④	3	2	1		
2	5	3	昇給・昇格制度は文書化されているか	B	④	3	2	1		
2	5	4	採用制度は文書化されているか	B	④	3	2	1		
2	6	中 項目	情報システム（情報システム化等による業務の効率化が図られているか）							
2	6	1	情報システム化等による業務の効率化が図られているか（情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか）	A	4	③	2	1		

<p>① 課題</p>	<p>2-2-1 事業計画書策定、理事会・評議員会の議事録は残されているが、教職員への配布までは徹底されていない。</p> <p>2-3-1 学校の運営会議規定は明文化されてはいないが、学園の規定に準じつつ運営は進められている。</p> <p>2-3-2 学園としての組織規定、決裁規定などは策定されているが、職務権限規定など一部改定を必要としている。</p> <p>2-4-3 授業アンケートは実施しているが、上長による授業評価における評価シートなどは整備を必要とする。</p> <p>2-4-4 教員、講師は講師会や各報告書などで連携しているが、その内容を諮り改善していく点ではばらつきがある。</p> <p>2-4-21 職員の能力開発のための研修は、計画書はないものの、前年度の状況を踏まえ研修の機会の情報を共有し、活用している。</p> <p>2-4-22 教員の指導力育成は21世紀アカデミアとしての教育理念を理解するための研修を行っているが、実践においてはばらつきがある。</p> <p>2-4-24 専門分野に係る研修はその時々最新の技術や企業マーケットのニーズに即した内容とした意向もあり、組織的計画的な実施が行いづらい。</p> <p>2-4-25 それぞれの専門能力開発計画策定までは至っていないが、外部研修の場の情報を教職員間で共有し、活用している。</p> <p>2-4-41 講師会は半年に一度以上実施しているが、議事録の共有などは徹底できていない。</p>
<p>② 今後の改善方策</p>	<p>2-2-1 情報公開している箇所の周知を行う。</p> <p>2-3-1 学校の運営会議規定（運営会議の権限、決議方法など）を検討する。</p> <p>2-3-2 職務権限規定の再検討をする。</p> <p>2-4-3 上長による授業評価における評価シートなどを整備する。</p> <p>2-4-4 教員、講師との連携を整え、意見を集約するチームを整備する。</p> <p>2-4-21 職員能力開発研修の計画をする。</p> <p>2-4-22 通常授業におけるリフレクションの技法の導入を検討する。</p> <p>2-4-24 専門分野の流行は読みにくいですが、年度における研修のスケジュールと概算を計画立案し、修正も含めて組織的に進めていく。</p> <p>2-4-25 教員個人に応じた能力開発計画は時間がかかるものであり、まずは初年度研修、2～5年度研修、中期キャリア研修、管理者研修など段階的なものを検討する。</p> <p>2-4-41 2-4-4の改善プランと同様、担当チームにより情報集約と検証、改定案の提言などの取り組みを行う。</p> <p>2-6-1 半年の遅れがあるが試験的に稼働し始めており、引き続き取り組んでいく。</p>
<p>③ 特記事項</p>	<p>教員の専門性を高めるための研修については、関連するセミナー情報などを学内で共有したり、就職指導で外部企業を招いた際の機会などもあるため、積極的に活用を検討していく。</p>
<p><b>点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント</b></p>	
<p>●教育理念・目標、学校運営について（学務責任者 野中報告より）</p> <p>2023年4月より学校法人としての体制を改革し「21世紀アカデミア」としてその実施に取り組んでおり、周知徹底についても適切に行われた。</p> <p>事業計画書、教職員の評価育成、教員の研修制度などについては、過渡期にあるということで課題が残っている。</p> <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋谷区の教育委員会が改革を進めているがなかなか進んでいかない。当校では着実に進めているのが素晴らしい。（岡崎委員）</li> <li>・不確実な未来、学生に何を伝えるべきか悩んでいるが、当校の取組みには感心している。（藤沢委員）</li> <li>・新しいことに取り組む進めていく姿勢は業界でも難しい中、当校の取組みには期待している。（松本委員）</li> </ul>	

3 教育活動				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1					
3	1	中項目	目標の設定（教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか）							
3	1	1	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	A	④	3	2	1		
3	1	2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	④	3	2	1		
3	1	3	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	B	④	3	2	1		
3	2	中項目	教育方法・評価等（各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか）							
3	2	1	教育理念・到達目標に沿って学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A	④	3	2	1		
3	2	2	講義および実習に関するシラバスは作成されているか	A	④	3	2	1		
3	2	3	各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	B	④	3	2	1		
3	2	4	シラバスあるいは講義要項（作成されていればコマシラバス）などが事前に学生に示され（あるいはホームページなどで公開されて）、授業で有効活用されているか	B	④	3	2	1		
3	2	21	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか（教育内容およびその評価方法、評価項目、手段、スケジュールは適切か）	A	④	3	2	1		
3	2	22	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	B	④	3	2	1		
3	2	23	学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか（学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか）	B	④	3	2	1		
3	2	24	評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか	B	④	3	2	1		
3	2	41	カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか	B	④	3	2	1		
3	2	42	カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか	B	④	3	2	1		
3	2	81	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A	④	3	2	1		
3	2	82	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか	B	④	3	2	1		
3	2	83	〔職業実践専門課程〕専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、演習・実習等を行っているか	B	④	3	2	1		
3	2	84	企業・施設等での職場実習（インターンシップ含む）があるか	B	④	3	2	1		
3	3	中項目	成績評価・単位認定等（成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか）							
3	3	1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	④	3	2	1		
3	3	2	学生や保証人（保護者）に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	B	④	3	2	1		
3	3	3	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	B	④	3	2	1		
3	3	4	〔職業実践専門課程〕専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、学生の学修成果の評価を行っているか	B	④	3	2	1		
3	4	中項目	資格・免許取得の指導体制（資格・免許取得のための指導体制があるか）							
3	4	1	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか（発行する修了証明書の種類及び内容）	A	4	③	2	1		
3	5	中項目	キャリア教育等（基礎的・汎用的能力（①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力）を身につけるための取組が実施されているか）							
3	5	1	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか	B	④	3	2	1		
3	5	21	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	A	④	3	2	1		

<p>① 課題</p> <p>3-4-1 1年次に配布予定だった学習システムの共有が大幅に遅れてしまったので、学生の機会損失を防ぐため、部署や学校一丸となって経過確認や対応の徹底を行う必要がある。業務分掌がされているが故に、どうしても個人に仕事が付きやすい状況になるため、それらを解消する取り組みが重要。</p>
<p>② 今後の改善方策</p> <p>3-4-1 上長や部署はもちろん、案件によっては職員全体で状況を把握するよう留意することで課題のクリアを目指す。具体的には定期的に行っている各部署・学科でのミーティングの場にて情報を共有し、縦横の連携で以てお互いに情報や経過を漏らさぬようにする。</p>
<p>③ 特記事項</p> <p>昨年度の課題としてあった資格取得に関する取り組みでは、こ留学生を対象とした日本語能力試験の実施の他、新たに「クロスオーバーウィーク」と題した、学内の全学科・専攻の学生を対象とした選択授業にてMicrosoft officeや金融リテラシーに類する授業や講義を行い、資格取得および取得に準じた講座内容を学生に与えた。</p>
<p><b>点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント</b></p> <p>●教育活動について ゲーム総合学科長 本木報告より 授業用シラバスと授業の詳細についてまとめた資料を明示し成績評価・卒業について・学習案内で説明する。 昨年からの変更点として進級に必要な単位数を明記した。 就職活動報告については、インターンシップ報告書・内定報告書・進路アンケートなどを使用して学生からの報告、就職指導を行っている。 学習システムの共有については不十分であった。また、昨年の2年生へのE T Oの共有が遅れてしまった点も今後の課題である。 資格取得の取組みについては、クロスオーバーウィークを実施することにより、Microsoft officeや金融リテラシーなど、資格取得やそれに準じたカリキュラムを実施することができた。</p> <p>質疑応答 ・クロスオーバーウィークに参加する学生はどのくらいいるのか？（藤沢委員） 本木：全学生の30%くらいが参加している。人気があるのはeスポーツや基礎演技。 藤沢委員：30%の参加率は、高い実績と言えると思う。先生方の意識づけの成果と思われる。</p>



4 学修成果・教育成果				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、 やや不適切・2、不適切・1			
4	1	中 項 目	学修成果（各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか）					
4	1	1	コース全体を通して、及びコースの修了時に、学習者の習熟状況をアセスメントしているか	A	④	3	2	1
4	1	2	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか（測定する知識、スキル及び能力、測定の基準、アセスメントの方法は明確か）	B	④	3	2	1
4	2	中 項 目	就職率（就職率の向上が図られているか）					
4	2	1	就職率の向上が図られているか（結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか）	A	④	3	2	1
4	2	2	学生の就職に関する目標が、教職員に共有されているか	A	④	3	2	1
4	2	3	学生の就職活動に関する記録がなされているか	B	④	3	2	1
4	2	4	対外部に向けた就職実績を公表しているか（パンフレット・HP等）	B	④	3	2	1
4	3	中 項 目	資格・免許の取得率（資格・免許取得率の向上が図られているか）					
4	3	1	資格取得率の向上が図られているか （目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか）	A	4	③	2	1
4	3	2	資格・検定・コンペに関する目標を設定したか	A	4	③	2	1
4	3	3	資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか	B	4	3	②	1
4	3	4	資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか	B	4	3	②	1
4	3	5	資格・検定・コンペの結果（合格者数・合格率）を公表しているか	B	4	3	2	①
4	4	中 項 目	社会的評価（卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか）					
4	4	1	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか）	A	④	3	2	1
① 課題 4-3-5 資格取得の向上については日本語検定を主たる資格目標として推奨している。在学時に取得が必要となる国家資格・免許がないため、目標設定はしていないのが現状。								
② 今後の改善方策 4-3-5 業界動向も鑑みて、認知度が高い資格を選定し、関連授業内で対策も兼ねた指導をおこなう試みを検討したい。しかしながら成年年齢の引き下げに伴い、資産形成だけでなく契約や金融トラブルに関する必要性が高まったことで、今年度は一般社団法人金融財政事情研究会主催による金融リテラシー検定を実施、93%の合格率は学校受験合格率平均を上回ることができた。								
③ 特記事項 一般社団法人日本アニメフィルム文化連盟と連携し、アニメータースキル検定のモデル校としてアニメ分野での新たな検定の導入を進行している。								
<b>点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント</b>								
●学習成果・教育成果について（グローバルキャリアデザインセンター 川上報告より） 成績評価基準・方法については講師マニュアルを提示・説明。 就職率については、就職活動スケジュール・就職シラバスを提示・説明する。 教育機関向けの業界セミナーへの参加を促すと共に留学生へは、日本語能力検定への指導を行っている。 最大の就活イベントとして実施の業界EXPOを通じて就職の意識づけと活動促進を継続的に行っており、 今期は在籍学生の80%が進路決定している。 また学内企業説明会を頻繁に実施しており、学生へ企業との関係性を意識づけるとともに業界に近い学校をイメージする。 ネクストステージアカデミーにて卒業後のフォローアップにも努めている。								
質疑応答 ・年々ポートフォリオの質が上がっている。倍率も上がってきているので就活でのアピールが非常に重要になっている。（松本委員） ・40周年記念式典でOB会、同窓会が活発に活動しているのが強いと感じた。（藤沢委員）								

5 学生支援			カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1				
5	1	中項目	修学支援（学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか）					
5	1	1	学生への修学支援を適切に行っているか	A	④	3	2	1
5	2	中項目	就職等進路（就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか）					
5	2	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか（またそれはきちんと学生や保証人（保護者）に周知されているか）	A	④	3	2	1
5	3	中項目	学生相談（学生相談に関する体制は整備されているか）					
5	3	1	学生相談に関する体制は整備されているか（相談窓口が設置されているか）	A	④	3	2	1
5	3	2	学生の面談・相談記録があるか	B	④	3	2	1
5	4	中項目	学生生活（学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか）					
5	4	1	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	A	④	3	2	1
5	4	21	学生の健康管理を担う組織体制はあるか（学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか）	A	④	3	2	1
5	4	41	課外活動に対する支援体制は整備されているか	A	④	3	2	1
5	4	42	学生の生活環境への支援は行われているか（学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか）	A	④	3	2	1
5	5	中項目	中途退学への対応（退学率の低減が図られているか）					
5	5	1	退学率の低減が図られているか（受講登録、出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか）	A	④	3	2	1
5	5	2	退学率の目標を設定しているか	A	④	3	2	1
5	5	3	退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか	B	④	3	2	1
5	5	4	退学者数を公表しているか	B	④	3	2	1
5	6	中項目	保証人（保護者）との連携（保証人との連携体制を構築しているか）					
5	6	1	保証人（保護者）と適切に連携しているか（保証人のニーズを把握しているか）	A	4	③	2	1
5	6	2	保証人（保護者）との計画的な相談会・面談を行っているか	B	4	③	2	1
5	7	中項目	卒業生・社会人支援（卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか）					
5	7	1	卒業生への支援体制を整備しているか（再就職、キャリアアップ等について、相談に乗っているか）	B	④	3	2	1
5	7	2	学校情報を卒業生に知らせているか（HP・学校便り等）	C	④	3	2	1
5	7	21	卒業生への卒業後教育等の支援体制はあるか（卒業生への講習・研修を行っているか）	B	4	③	2	1
5	7	41	社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	A	4	③	2	1
① 課題								
<p>5-6-1 担任活動において保護者との連絡は必要に応じて行なっているが、能動的な連携には至っていない。また、留学生の場合は母国との連携には限度があるため、また違った基準でのニーズのキャッチアップを検討する必要がある。</p> <p>5-6-2 保護者との連携において、年間の計画、面談の実施、報告書など整備が必要である。</p> <p>5-7-41 21世紀アカデミアとして、卒業生への支援プログラムを構築しているが、実働は次年度以降となる。</p> <p>社会人学生の受入れは行なっているが、個別での対応にとどまっておき、特化された教育環境の整備までは行われていない。</p>								
② 今後の改善方策								
<p>5-6-1 連絡体制の構築、アンケートの実施、定期報告の実施などを検討する。留学生の場合は保護者からのニーズのキャッチアップを試みるが、方針の策定は段階的に行う。</p> <p>5-6-2 担任活動と連動した年間スケジュールをもとに、保護者面談の時期などを検討する。</p> <p>5-7-41 卒業生支援の新プログラムの周知を図るとともに、社会人に向けては当面は通常のカリキュラムの中で対応可能な授業をピックアップし、情報提供を行うなど漸次対応していく。</p>								
③ 特記事項								
<p>次年度より卒業後の進路支援として「ネクストステージアカデミー」を開始し、様々なプログラムを提供して社会人としてのステップアップにしよう。また、従来よりの"rejob support"という名称で専用窓口を設置している。教育イベントの情報発信や副業などのアルバイト、中途採用情報など企業からの依頼も少なくないことから、最低でも月1回はメールで行っている。転職活動の一助にもなっているほか、卒業生から自社の採用の連絡を受けることもあり、求人獲得に繋がっている側面もある。</p>								

点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント

●（学生支援）学務責任者 野中報告より

就学支援については、学生が安心して学べるか、学費の不安を解消しているか、学生向けの寮マンションの情報を提供しているか  
→すべて問題なし。  
学生の相談窓口については、学習案内等で伝えていくと共に週に1日、スクールカウンセラーに来校して対応頂いている。  
就職等進路支援についても徹底した支援体制が取れている。  
学校行事としての教育イベントや制作物の発表などはPRしていたが、保護者会としては開催できていない状況。今後検討する。

質疑応答

- ・学生サポートについては、幅広く展開されていて良いと思う。就職活動については本人だけでなく保護者も巻き込んでフォロー体制を築く必要があると思う。ゲームやアニメ・声優など親には特にわからないであろう業界でもあるので、ぜひ検討して欲しい。
- ・先のインターンの話もそうだが、産学共同や地域との連携を通した課外活動なども積極的に取り入れてほしい。そうした活動を通じて自己の表現や作品発表の機会を得ることが、学生にとってはモチベーションアップであるであろうし、その姿がイコール親としての喜びであることも今一度認識いただき、学生支援また家族支援と考えていただきたい。（藤沢委員）

6 教育環境			カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1				
--------	--	--	-------	---------------------------	--	--	--	--

6	1	中項目	施設・設備等（施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか）	カテゴリー	④	3	2	1
6	1	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか）	A	④	3	2	1
6	1	2	学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか	A	④	3	2	1
6	1	3	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか	A	④	3	2	1
6	1	21	分煙・禁煙等に関する規定が文書化・掲示されているか	B	④	3	2	1
6	1	22	学内の整理・整頓・清掃に関して定期的に管理・チェックがされているか	B	④	3	2	1
6	1	41	施設・設備の点検、補修・修繕等は定期的または適宜行っているか	A	4	③	2	1
6	2	中項目	学外実習、インターンシップ等（校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか）	カテゴリー	④	3	2	1
6	2	1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	A	4	③	2	1
6	2	2	実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備されているか。	B	4	③	2	1
6	3	中項目	防災・安全管理（防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか）	カテゴリー	④	3	2	1
6	3	1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	A	④	3	2	1
6	3	2	防災・防犯設備（非常灯・消火器・警備システム等）が整備・点検されているか	A	④	3	2	1
6	3	21	定期的に防災訓練を実施しているか	A	④	3	2	1
6	3	41	学校における安全管理の整備を行っているか	B	④	3	2	1

① 課題

6-2-1

ルールの策定や会議体としての報告共有の態勢などについては整備されつつあるが、新任の職員に対しての状況共有や研修に不足が見られる。

② 今後の改善方策

6-2-1

策定されたルールを主に新任の職員にしっかりと研修する体制を模索していく

③ 特記事項

特になし

点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント

●教育環境について（学務責任者 野中報告より）

教育のためのハードウェアの充実を行っている。パソコンやソフトウェアの更新を行っている。  
教育環境の整備については突発事項に対しての対処療法的な対応になっている。  
教職員の入れ替わりによる情報共有に少し問題がある。

質疑応答

特になし

7 学生の受け入れ募集				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1					
7	1	中項目	学生募集活動（学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受け入れについて方針を明確にしているか）							
7	1	1	学生募集活動は、適正に行われているか	A	④	3	2	1		
7	1	2	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか	A	④	3	2	1		
7	1	3	学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか	A	④	3	2	1		
7	1	4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか	A	④	3	2	1		
7	1	21	入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制ができていますか	A	④	3	2	1		
7	1	22	学校説明会等による情報提供（育成人材像、評価手段及びその基準、目指す資格・検定・コンペ、学費・教材費等の情報）を行っているか	A	④	3	2	1		
7	1	23	入学予定者に対し学習指導・支援等は行われているか	B	④	3	2	1		
7	2	中項目	入学選考（入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか）							
7	2	1	学校案内等には選抜方法が明示されているか（入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか）	A	④	3	2	1		
7	2	2	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか	A	④	3	2	1		
7	3	中項目	学納金（学納金は妥当なものとなっているか）							
7	3	1	学納金は妥当なものとなっているか	A	④	3	2	1		
7	3	2	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	A	④	3	2	1		
① 課題 特になし										
② 今後の改善方策 特になし										
③ 特記事項 AO入学（令和6年度生より総合型選抜）において、入学前授業の充実に取り組んでおり、専攻ごとのカリキュラムで指導を実施している。早期の学習、将来のクラスメートとの交流など、入学後の学生生活に大きな効果をあげている。										
<b>点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント</b>										
●学生の受け入れ募集について（学務責任者 野中報告より） ・学校選びの早期化が進んでいるので、入学案内書の改定も早めに行っている。 ・アドミッションポリシーを策定し公開している。 ・AO授業の出席率を向上させている。										
質疑応答 特になし										

8 教育の内部質保証システム				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1					
8	1	中項目	関係法令、設置基準等の遵守（法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか）							
8	1	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A	④	3	2	1		
8	1	2	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	A	④	3	2	1		
8	1	3	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか	B	④	3	2	1		
8	2	中項目	個人情報保護（個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか）							
8	2	1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	A	④	3	2	1		
8	2	2	個人情報保護規程が文書化されているか	A	④	3	2	1		
8	2	3	個人情報の取扱いについて、教職員に対し周知し、意識づけができていないか	B	④	3	2	1		
8	3	中項目	学校評価（自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか）							
8	3	1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか	A	④	3	2	1		
8	3	2	自己点検・評価報告書にまとめているか（自己点検・評価報告書があるか）	A	④	3	2	1		
8	3	3	自己点検・評価の組織があるか	B	④	3	2	1		
8	3	21	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか	B	④	3	2	1		
8	4	中項目	改革・改善（各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか）							
8	4	1	自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか	A	④	3	2	1		
8	4	2	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	A	4	③	2	1		
8	4	3	自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか	B	④	3	2	1		
8	4	4	自己点検・評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか	B	4	3	②	1		
8	4	5	学校関係者評価の結果に基づき改善計画を策定したか	B	④	3	2	1		
8	4	6	学校関係者評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか	B	4	3	②	1		
8	5	中項目	教育情報の公開（教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか）							
8	5	1	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A	④	3	2	1		
8	5	21	自己評価結果を公開しているか	A	④	3	2	1		
8	5	22	学校関係者評価結果を公表しているか	B	④	3	2	1		
① 課題										
8-4-2 卒業後のキャリア形成への効果を把握するアンケート調査等、具体的集計まで至っていない。月1回の求人情報配信、該当者とのやりとりまで。										
8-4-4 評価結果に基づき、期限を定めて結果の検証が未達である。										
8-4-6 評価結果に基づき、期限を定めて結果の検証が未達である。										
② 今後の改善方策										
8-4-2 卒業後、期限を定めてアンケート調査を実施、教育効果を把握改善に取り組む。										
8-4-4、8-4-6 改善事項の具体的な期限と計画をたてて取り組む。自己評価の結果を学内全体で確認し、改善項目に対して担当の任命、改善プランの策定、定期的な進捗確認を行うなどの取り組みをしていく。										
③ 特記事項										
特になし										

9 財務				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、 やや不適切・2、不適切・1				
9	1	中 項目	財務基盤（学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか）						
9	1	1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか	A	④	3	2	1	
9	1	2	年度予算・中期計画が策定されているか	A	④	3	2	1	
9	2	中 項目	予算・収支計画（予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか）						
9	2	1	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A	④	3	2	1	
9	2	2	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	B	④	3	2	1	
9	3	中 項目	監査（財務について会計監査が適正におこなわれているか）						
9	3	1	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	A	④	3	2	1	
9	4	中 項目	財務情報の公開（私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか）						
9	4	1	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	A	④	3	2	1	
9	4	2	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど積極的に取組んでいるか	B	④	3	2	1	
① 課題 特になし									
② 今後の改善方策 特になし									
③ 特記事項 学納金収入の減少はあるが、予算計画において収支は管理しており財務基盤としては特段の課題はない。情報公開も適切に行っている。									

**点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント**

●教育の内部質保証システム●財務について（事務長 池田報告より）  
 専門学校の設置基準を順守している。以下すべての項目において問題なし。

- ・個人情報保護→適切に実施している。
- ・コンプライアンス管理体制→就業規則にて記載
- ・HP上で各種の情報を公開している。
- ・全国姉妹校の校友会を全国統一のアカデメイヤネクサスとして再編成を行う。
- ・財務基盤としては問題ない。PL表も毎年公開している。

10 社会貢献・地域貢献				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、 やや不適切・2、不適切・1				
10	1	中 項目	社会貢献・地域貢献（学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか）						
10	1	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A	④	3	2	1	
10	1	2	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	A	④	3	2	1	
10	2	中 項目	ボランティア活動（学生のボランティア活動を奨励・支援しているか）						
10	2	1	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	A	4	③	2	1	
① 課題 10-2-1 館内掲示や担任活動内で案内をする体制はあるが、直接的なボランティア活動の支援は行えていない。									
② 今後の改善方策 10-2-1 日頃の学習が活かせるような専門技術を利用する活動を選定し、学生に積極的に推奨していく。									
③ 特記事項 特になし									

**点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント**

●社会貢献・地域貢献について（アニメ総合学科学科長 真家報告より）

- ・国税局、渋谷税務署とのアニメ制作の協力→新宿駅など全国各所で上映されている。
- ・昨年、千駄ヶ谷小学校においてアニメ作品上映会を実施した。今年も実施予定である。
- ・科学技術学園高校で出張授業を行っている。

質疑応答

- ・千駄ヶ谷小学校、渋谷区教育委員会は大変感謝している。
- ・当校の学生をサポートフォローできるアイデアがあればぜひご提案して頂きたい。
- ・地元で安くご飯を食べられるお店などがあればいいと思う。商店街としてもお互いWIN WINとなる関係性を検討していきたいと思う。

1 1 国際交流（必要に応じて）				カテゴリー	適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1				
11	1	中項目	留学生の受入れ・海外への留学（留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか）						
11	1	1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	A	④	3	2	1	
11	1	2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	A	④	3	2	1	
11	1	3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	A	④	3	2	1	
11	1	4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	A	④	3	2	1	
① 課題 特になし									
② 今後の改善方策 特になし									
③ 特記事項 特になし									
<b>点検・評価項目に係る達成状況の説明及び評価委員からの評価・コメント</b>									
●国際交流について（学務責任者 野中報告より） ・在校生の留学生の割合が約4割、また逆に今年度はロスアンゼルスにおいて当校の学生が1か月共同生活を行っている。 質疑応答 ・スクールカウンセラーが来て頂いたという話は安心しました。人に相談するというスキルや経験は大切。留学生の支援サポートも素晴らしいと感じました。（藤沢委員） ・企業としてもカウンセラーを導入し社員教育に力を入れている。ハラスメント講習などの対応も行っており、そういうことも取り入れるのはいかがか？多国籍化として、外国でアニメーション制作のメインとなるケースも増えているので、英語や韓国語など外国語をカリキュラムに入れてもいいと思う。（松本委員）									
総括（学校長） 昨年1年の振り返りとしては、組織力を高め昨年の出願数は全学科充足しました。一方で注力できた部分と不足していた部分もあり、継続率は前年度を下回った。昨年は多くの新しい取り組みをしたが、学生さんへの浸透が不十分な面もあった。 今年もご指導、よろしくお願いいたします。									